

■生物

植物

計画目標 ・ 生物多様性に資するため、市域に現存する植物が保全され、身近なところでふれあえるまちであること

現 状

■指標：身近な植物の生息地の把握状況

市域には次のような植物が生息しています。

地 域	種 類
生田緑地	クヌギ、コナラ、仮ナギ、ミズキ、Iノハ 等の落葉広葉樹林、谷戸奥はIノハの群落
東高根森林公園	シラカシ、アヲカシ、ウツギ 等の常緑広葉樹林
早野の丘陵	主としてコナラ、クヌギ の二次林、自然植生も残存、谷地にはIノハの群落やスギ 類
黒川の丘陵部	コナラ、クヌギ の二次林を主体にシラカシ等の自然植生残存
久末緑地	コナラ、Iノハ、Iノハ、ミズキを主体とした落葉広葉樹林、カマツナ、モリノキ竹林
多摩川河口部	シラカシ、ウツギ 等の塩沼植生

動物

計画目標 ・ 生物多様性に資するため、市域に生息する鳥、魚、小動物、昆虫が保全され、身近なところでふれあえること

現 状

■指標：身近な動物の生息地の把握状況

市域には次のような鳥、魚、小動物、昆虫等が確認されています。

・ 昆 虫（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
トンボ	全市：52種類 モートナイトトンボ、シオカラトンボ 等
チョウ	全市：59種類 ウラナミアカシジミ、ヘニシジミ 等

・ 鳥 類（全市：15目41科166種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

地 域	名 称
臨海部	シギ・チドリ 類 等
内陸平野部	ウグイス、コサギ 等
北部丘陵部	ミソゴイ、オオタカ、ヤマガラ 等

・ 小動物（出典：川崎市自然環境調査報告等）

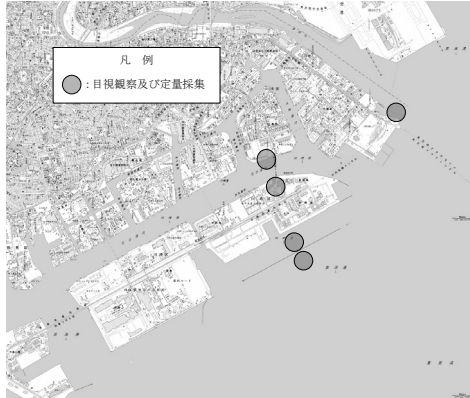
種 類	名 称 等
哺乳類	全市：5目7科14種 タヌキ、ノウサギ、イタチ、アブラコウモリ 等
両生類・爬虫類	全市：4目10科20種 ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、アオダイショウ、カナヘビ 等

・ 魚 類（全市：8目17科50種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称
魚類	ホトケドジョウ、アユ、オイカワ 等

・水生生物（出典：川崎市公共用水域水質測定事業(市計画)(多摩川河口干潟における魚類調査)報告書、川崎港生物相調査業務委託報告書）

地域	名称
多摩川本川	マダガハ、ヒリガ、マダ等の魚類、ゴカイ、ドクガニ等の魚類以外の水生生物
川崎港	ソダチ、ハタハタ、テゾウダイ、マササギ、メダカ、ドクガニ等の魚類、ミドリガイ、ヒメガイ、ホヨビ、スズメバチガニ等の魚類以外の水生生物



川崎港生物相調査地点



多摩川の魚（アユ）

主な施策の概要

具体的施策名	2009（平成21）年度実績	2010（平成22）年度計画等
--------	----------------	-----------------

Ⅱ-3-1 生物に関する情報の収集整理

Ⅱ-3-1-1 生物調査の実施

「自然環境調査」等による現存植生や生物生息調査の実施 [環：環境対策課／公害研究所、教：青少年科学館]	<input type="checkbox"/> 調査実施地区数 ・生物の生息地調査の実施 親水施設調査：3地点、溜池調査：3地点 ・「第7次自然環境調査」：3年目	・地域の自然を調査し、資料収集整理し、まとめる。 ・継続して調査を実施 ・「第7次自然環境調査」：4年目
市内の希少な動植物等の生育・生息状況調査の実施 [環：公害研究所]	<input type="checkbox"/> 動植物の生育・生息状況 ・ホトケドジョウ、トビハゼ他の生息確認 <input type="checkbox"/> 調査実施回数：6回	<input type="checkbox"/> 動植物の生育・生息状況：継続
市内河川や河口干潟における水辺生物の調査の実施 [環：環境対策課／公害研究所]	<input type="checkbox"/> 調査実施地区数： ・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分）	予定 ・市内河川4地点（公害研究所分） ・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分）

Ⅱ-3-1-2 生物に関する情報ネットワークづくり

環境調査や市民からの情報等の収集による市内の動植物に関する情報の整理 [環：環境調査課／公害研究所、教：青少年科学館]	市内の動植物確認数 ・植物：1,451種 ・哺乳類：14種 ・鳥類：166種 ・爬虫類：13種 ・菌類：455種	・地域の自然の全般調査
川崎港生物相調査 [環：環境対策課／公害研究所]	<input type="checkbox"/> 付着生物調査（5か所、年2回）	<input type="checkbox"/> 大型海藻草類調査（5か所、年2回）

Ⅱ-3-2 生息地の保全

Ⅱ-3-2-1 生息地の保全

自然的環境を有する土地における生態系の保全に資する動植物の生息地の保全指針の策定 [建緑：緑政課]	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川・岡上・早野の回遊性を検討し、黒川地区をリーディング地区として、地域団体・農業者と実現可能な実施プランを検討した。 ・動植物の生息・生育環境保全に関する普及啓発	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川・岡上・早野の回遊性を図ると共に黒川海道緑地での整備・活用を図る。 ・動植物の生息・生育環境保全に関する普及啓発と手引きの普及
--	--	---

具体的施策名	2009（平成 21）年度実績	2010（平成 22）年度計画等
II-3-2-2 開発時の配慮		
公共事業の実施において、対象地域内に生息地がある場合は、その保全・再生の推進 〔建緑：公園緑地課／緑政課〕	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続
民間による開発事業に対する生息地の保全・再生に向けた指導の実施 〔建緑：公園緑地課／緑政課〕	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続
II-3-2-3 緑地の保全		
緑地保全制度の活用	【II-2-1-1 施策参照】	【II-2-1-1 施策参照】
樹林地の保全	【II-2-1-2 施策参照】	【II-2-1-2 施策参照】
農用地の保全・活用制度の充実	【II-2-2-1 施策参照】	【II-2-2-1 施策参照】
II-3-3 生息空間の創出		
II-3-3-1 公共事業等に伴う生息空間の創出		
河川の整備における漁礁ブロック、魚道の設置等、生物の生息環境への配慮の実施 〔建緑：河川課〕	□設置件数（累計） ・魚道：3か所（±0か所） ・漁礁ブロック：1か所（±0か所）	□計画 ・未定
大規模な公共事業等に伴う環境調査やアセスメントの際に、計画区域内の緑地の確保と生物の生息空間の創出への要請の実施 〔環：環境評価室〕	※要請件数：－	継続して実施
II-3-3-2 都市緑化の推進		
公共用地及び民有地の緑化の推進	【II-2-3 施策参照】	【II-2-3 施策参照】
II-3-4 生物とふれあう機会の創出		
II-3-4-1 自然観察会の実施		
自然観察会や市民環境調査等の実施による市民が地域の自然・生物と親しむ機会の創出 〔教：青少年科学館〕 〔環：環境対策課／公害研究所〕 〔建緑：多摩川施策推進課〕	□自然観察会等の実施件数 ・夏休み多摩川教室：年1回開催 ・水生昆虫ふれあい教室：年1回開催 ・環境セミナー：年1回開催 ・東京湾の水質について説明・見学：年1回開催 ・多摩川鮎の観察会：年1回開催 ・水辺の楽校：月1回開催 ・河口干潟観察会：年16回開催 ・生田緑地観察会：年36回開催 ・自然観察会：年7回開催 ・こども自然探検隊：年13回開催 ・こども自然教室：年5回開催	□予定 ・夏休み多摩川教室：年1回開催 ・水生昆虫ふれあい教室：年1回開催 ・環境セミナー：年1回開催 ・夏休み水環境体験&地球にやさしい3R学習ツアー：年1回開催 ・水辺の楽校：月1回開催 ・河口干潟観察会：年16回開催 ・生田緑地観察会：年36回開催 ・自然観察会：年3回開催 ・こども自然探検隊：年8回開催 ・こども自然教室：年11回開催

アメニティ

「快適性、快適環境」と訳される。語源はラテン語のアマーレ（Amare=愛）。生活環境を構成する自然や施設、歴史的・文化的伝統等が互いに他を活かし合うようにバランスが取れ、その中で生活する人間との間に調和が保たれている場合に生じる好ましい感覚をいう。

■都市アメニティ

都市景観

- 計画目標
- ・建物や緑のデザインに配慮した都市空間や個性ある景観が保たれていること
 - ・屋外広告物等がまちの美観と調和し、良好な道路空間が創出されていること

現状

■指標：都市景観形成地区数(2000年現在の地区数より増やすことを目指す)

市では、1994年12月に川崎市都市景観条例を制定するとともに、1996年には、この条例に基づき川崎市都市景観形成基本計画を策定し、2000年度末までに、川崎区たちばな通り、新百合丘駅周辺地区及び川崎駅西口大宮町の3地区を都市景観形成地区に指定しました。2005年3月に大山街道、7月に武蔵小杉周辺地区、12月に新百合山手地区、2006年8月に新川崎地区を指定しましたので、合計7地区になりました。